

〔例題1〕 児童自立支援施設に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 現在の児童自立支援施設の原型となっているのは、石井亮一により設立された感化院である。
- イ. 児童自立支援施設は、都道府県に設置が義務付けられている。
- ウ. 児童自立支援施設には、看護師及び心理療法担当職員の配置が義務付けられている。
- エ. 家庭裁判所の審判に付された少年は、保護処分として児童自立支援施設に送致される場合がある。

- 1. ア, イ
- 2. ア, ウ
- 3. ア, エ
- 4. イ, ウ
- 5. イ, エ

〔正答5〕

〔例題2〕 テイラー (Taylor, F.W.) の科学的管理法に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 生産性・効率性は、労働者の誇りなどの情緒的要素や人間関係などの社会的要素の影響を受けるとした。
2. 組織を権力闘争の場として捉え、組織の権力構造が、経営戦略の行方に重要な影響を及ぼすことは避けられないと考えた。
3. 組織を機械のイメージで捉え、生産効率の面から作業行動を分析し、労働者の賃金の支払い方や休憩時間の長さ、照明の明るさなどを設定することを提唱した。
4. 組織を社会や環境の変化に適応して発達する、一つのまとまりを持つ生命体のように捉え、環境に適応していかなければ組織の存続は難しいとした。
5. 組織を集合的情報処理を行うものとして脳のイメージで捉えようとし、外部からもたらされる情報を正確に処理して、的確な判断を下すことが大切であるとした。

〔正答3〕

〔例題3〕 「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 認知症の人の状態は、周囲の人々やケアの状態を反映する鏡であるとされることから、認知症の人を支える側の視点に立ち、介護者主体の医療・介護等を徹底する。
2. 認知症の人がなじみの暮らし方を継続できるよう、発症予防、発症初期、急性増悪時、中期、人生の最終段階という認知症の容態の変化にかかわらず、常に自宅において医療や介護を提供することを目指す。
3. 小・中学校において認知症サポーター養成講座を開催したり、大学生に対して認知症介護指導者養成研修を行ったりすることで、児童・学生の認知症への理解を促進する。
4. 「認知症ケアパス」は、認知症の人が自ら作成する医療・介護サービスの計画と定義されるが、個々の認知症の人の意思を尊重した認知症ケアパスが実現できるようサービスの多様化を図る。
5. 認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進する。

〔正答5〕